□　とまと　□

タバココナジラミ防除対応　栽培指針

中段　標高５００～６００m基準

1　作型・品種

	は種期	定植期	収穫期	適　品　種
夏秋露地栽培 接木	3/上～3中	5/中	7/上～9/下	麗夏・桃太郎

2　特性

⑴ 発芽適温　　２５～30℃（15℃以下、30℃以上で発芽率劣る）
⑵ 生育適温　　２５～３０℃（８℃以下、35℃以上では生育障害が出る。）
⑶ 花芽分化
・本葉７～８枚で分化し、その後３枚毎に花芽が出来る。側枝は５枚で分化し、以後、3枚毎に花芽が分化する。
・育苗期間は１０℃を確保し、適度な着花を促す。根の生育適温は22℃位である。

3　品種

・麗夏　　果色、色まわりにすぐれ、硬玉で肉質、日持ちがよい
・桃太郎系　　甘味と酸味のバランスがよく、すぐれた食味を持つ。

接木苗を使用する。

・トマト黄化葉巻病耐病性品種を導入する場合は団地内の同意を得る。
〇トマト黄化葉巻病耐病性品種は、保毒しても症状が軽減されるため、ウイルスの発生感染に気付くのが遅れて発生拡大を助長する可能性があるため、導入にあたっては団地内生産者の同意を得る。

4　土壌・施肥

・根は深さ１mに横には２．５mになるがその大部分は深さ50cmまでに分布する。深耕、有機質の施用などにより土壌改良を行うとともに排水、潅水対策を行う必要がある。
⑴ｐＨ　　6.0～6.5
⑵施肥（成分量）　　堆肥　６００ｋｇ／１ａ
【本　ぽ】

	a当り総量	基　肥	追　肥
N	２．８～３．５ｋｇ	１．４～１．７ｋｇ	１．４～１．７ｋｇ (大玉は２～３割増)
P	２．５～３．０ｋｇ	全量基肥	
K	3．０～３．５ｋｇ	１．５～１．７ｋｇ	１．５～１．７ｋｇ

※ 追肥は初めの果実がビンポン玉の頃より生育を見て、10日間隔くらいで少量ずつ行う。
※ 緩効性肥料の100日タイプを使用して全量基肥出施用して、追肥で微調整することも可能である。

5　は種・育苗

- 　4～5月の接木育苗でも６０～６５日で定植となるので、温度管理、水管理は充分に注意して行う。セル苗配苗後２５～３０日で定植

1）　育苗ハウスに防虫ネット（0.4mm目合い）を設置する。
2）　育苗期間中にタバココナジラミを含めた病害虫の発生状況を適宜確認し、発生を認めたら速やかに防除を実施する。

6　定植・その後の管理

- 　タバココナジラミを「入れない」「増やさない」「出さない」ため、防虫ネット（0.4mm目合）を設置する。　**環境にやさしい農業技術①**

〇施設の出入り口及び窓等の開放部分には、0.4mm目合の防虫ネットを設置する。

うね巾　　１５０～１８０ｃｍ　　株間　４０～５０ｃｍ　　２条植え

⑴ 定植
- 第１果房が１～２花が開花した頃が良い。若苗は樹勢が強くなりやすく、異常主茎や着果不良を起しやすい。

⑵ 活着促進
- 定植後生育を始めるまでは様子を見ながら、株元へ数回潅水を行い、活着を促進する。
- 活着後は着果するまでは最小限の潅水にして、根張りを良くする。
- 第３果房が開花するまでは潅水は控えめにする。
- 地温は１３～１５℃を確保する。

⑶ 潅水と追肥
- 第３果房の着果初めから潅水量を増やし、追肥を開始する。
- 一度に大量の潅水を行うと裂果の発生原因となるため、潅水は少量多回数とする。
- コナジラミ類の発生状況を「黄色粘着板」を用いて確認する。　**省力化技術**

〇コナジラミ類は“黄色”に誘引されるため、黄色粘着板をハウス内に設置し、発生状況を定期的に確認し、防除の目安とする。
〇出入口を中心に、ハウス内の複数個所に設置する。
〇設置する高さは施設内では生長点付近とする。
〇ハウス外周部に黄色粘着テープ（シート）を設置する場合は、地上50㎝程度の場所とする。
（他県が屋外で調査した事例では、全誘引数の60～70%が地上30㎝で誘殺された）
- 体への付着によるハウス内及び団地内への侵入・拡散を防止する。

〇栽培ハウスに出入りする際は、ブロワーによる風を10秒ほど体全体にあて、体への付着による侵入及び拡散を防止する。
〇他地域（県外含む）から団地へ訪れる資材業者や行政関係者等に対して、産地間移動による持ち込みに注意するよう、各自で注意を促すとともに、可能であればブロワー使用を依頼する。

7　ホルモン剤の処理

- トマトトーン　１００倍　　1果房で3花程度開花したときに果房に処理する。
- 薬剤が生長点にかからないようにする。　　奇形葉が出来る。

・ 二度掛けると空洞果等が出来やすい。
・ 中段果房の開花までの低温期は効果が高い。

7　誘引、整枝、摘果

・ 主枝一本仕立てが原則である。複数の仕立てを行うときは果房の下の側枝を使用する。
・ 1果房３～４果に摘果する。初めに果を付け過ぎると4段目以上に着果しなくなる。

8　追肥

・ 尻ぐされ病対策として開花期にカルシウム剤の葉面散布を行う。
・ 果がピンポン玉位になったら樹勢を見て追肥を始める。。
・ 追肥は少量ずつ行う。

9　収穫・調製

・ 果実温の低い時間に収穫する。
・ 収穫後、へたははさみで切り直さないと傷がつきやすいので注意する。

１０　病害虫の防除

・ ハウス周辺の雑草の除草を徹底する。
〇コナジラミ類は、多種の雑草にも寄生するため、ハウス内は常に除草を行い、寄生する植物を極力少なくする。
〇ハウス周辺についても定期的に除草し、寄生植物を極力少なくする。なお、除草を行う際は、拡散を防止するため、下記の効果的な防除を行った後、草刈り作業等を行う。
・ 効果的な薬剤の防除を行う。
〇タバココナジラミ発生の有無に関わらず、定植後２週間おきに気門封鎖剤を散布する。

環境にやさしい農業技術②

〇発生したら殺虫剤の散布を開始する。
　下表の薬剤は団地内で捕殺されたタバココナジラミに対してある程度の殺虫効果が確認（野菜花き試験場において調査（アルバリン及びサフオイルを除く）されたものであり、同じ薬剤を連用しないようローテーション防除を行う。
〇各殺虫剤には気門封鎖剤（フーモン）を添加する。
〇散布の際は、葉裏に薬液が十分にかかるよう、圧力、竿の振り方に留意する。

・ 降雨、高温多湿などにより病害が多くなるので薬剤散布の間隔を短くする。
・ 乾燥が続くときは害虫の発生が多くなる。

・植物残渣は適正に処分する。
〇栽培終了後に残渣をほ場外へ持ち出す場合は、抜根して地上部を十分に枯らし、葉に生息する幼虫が死滅してから行う。
〇果実が着生した状態では枯れ込みが遅れるため、果実を除去してから行い、果実も適切に処分する。
〇残渣は焼却又は埋設処理とするが、その処置が難しい場合には、残渣全体を透明ビニールで被覆し、植物に寄生しているコナジラミ類が拡散しないようにする。

【防除薬剤】　※農薬使用の際は、ラベルなどで必ず登録内容を確認する。

区分	薬剤名	使用回数（適用有無）		IRAC コード	備　考
		トマト	キュウリ		
定植時	アルバリン粒剤	１回	１回	４Ａ	
予　防 発生前	サフオイル乳剤	－	－	－	回数制限なし 野菜類で登録あり
予　防 ＋ 発生時	モスピラン顆粒水溶剤	３回以内	３回以内	４Ａ	
	コルト顆粒水和剤	３回以内	３回以内	９Ｂ	
	アグリメック	３回以内	２回以内	６	ﾐﾆﾄﾏﾄの登録なし
	ファインセーブフロアブル	３回以内	×	34	
	モベントフロアブル	３回以内	３回以内	23	
	トランスフォームフロアブル	２回以内	２回以内	４Ｃ	
	アルバリン顆粒水溶剤	２回以内	２回以内	４Ａ	
	ベネビアＯＤ	３回以内	３回以内	28	
	アファーム乳剤	５回以内	２回以内	６	

令和5年7月3日現在

１１　栽培歴

項目＼作業時期	４月			５月			６月			７月			８月			９月			１０月			１１月			１２月			１月			２月			３月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作業段階	定植		－	－	－	－	収穫		－	－	－	－	抜根																					育苗		－
								育苗		－	定植		－	－	－	－	収穫		－	－	－	－	抜根													
																				育苗		－	定植		－	－	－	－	収穫		－	－	－	－	抜根	
技術	防虫ネットの設置による物理的防除												－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	気門封鎖剤を組み合わせた初発抑制												－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	黄色粘着板による発生予察														－	－	－	－	－	－	－	－	－	－												